

五期俳句会第百六十八回八月五日

この暑さの中全員揃う、もう文章を書くのもしんどい毎日皆よく頑張っています。

つくづくと八十路の旅の遠花火

今井由紀子

朝蝉と競い掃除機かけてをり

浅香さとみ

白蓮も混じる蓮池亀二匹

松浦武子

昇りたて朱色の満月七月尽

松浦武子

明け白々かそけき音や蓮開く

今井由紀子

釣り忍吊って軒端を高うする

浅香さとみ

風運ぶ祭囃子に気が弾む

塩田亘子

初盆や遺品の硯窪みたる

今井由紀子

夜濯よすすぎの干し物ゆらす夜半よはの風

塩田亘子

蓮開く佛の座所を思はせて

松浦武子

川べりの木蔭で休む人の汗

久貝貞子

浮き草の流さるるごと園児行く

今井由紀子

テーブルに梅干しの種大暑かな

浅香さとみ

月赤く夜空に火照る熱帯夜

塩田亘子

梅雨茫々テレビの笑に従いて行けず

浅香さとみ

清流の瀬音に夏を忘れけり

松浦武子

年古りて母の梅酒や琥珀色

今井由紀子

梅雨あけや窓開け放ち風走る

塩田亘子

台風がそれて飼いだ小屋を出る

久貝貞子

今月は会場の都合で五日の水曜日になりました。

暑すぎて考える事も面倒です。この辺で。